

令和4年度「熊本大学病院教育支援事業」使用実績報告書

使用者 (代表者)	氏名	所属	職名
	平田 直之	麻酔科	教授
グループ全員 *記入欄が不足する場合は、 別紙に記入	生田 義浩	中央手術部	准教授
申請事項及び 申請内容	医学科学生および臨床研修医への緊急気道確保訓練（ビデオ喉頭鏡や気管支ファイバーを用いた気管挿管訓練を含む）		
助成金額	910,050円	助成金使用総額	910,050円
使用内訳			
消耗品 69,650円 (内訳) 喉頭鏡ブレード、気管支鏡等 旅費 円 (内訳) その他 840,400円 (内訳) ビデオ喉頭鏡、気管支鏡本体等			
成 果 (※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度) 麻酔科では、従来から中央診療棟7階のSimMan3Gシミュレータを用いて麻酔科臨床実習の医学生に対して、体験型の臨床実習を行ってきた。SimMan3Gは高機能シミュレータであり、気道に関しては通常の挿管に加え挿管困難症例も作成できる機能がある。そのため、医学科学生および臨床研修医の緊急気道確保訓練に有効であると考え、支援経費で現在普及しているビデオ喉頭鏡（McGRATH MACやエアウェイスコープ）や気管支ファイバーの備品を揃え教育に応用した。学生は、麻酔科ポリクリの時に様々な挿管の方法を示すことで、気道確保に従来にも増して興味を示し、各種挿管器具の操作法の基礎を学ぶことが出来たと考える。従来からの体験型の臨床実習のより一層の充実が可能となった。また、麻酔科研修の初期研修医は、気道確保訓練を行うことが出来たのは3名と少数であったが、訓練後のアンケートでは、全員が「有意義な訓練であった」との意見を述べていた。訓練後の変化としては、「その後の実際の挿管手技時に、訓練内容を振り返りながら不安なく行うことが出来た」との意見や、「それぞれの手技に対しての大切なポイントを理解でき、それを実際の手技につなげることができた」との意見が挙げられていた。ただ、訓練時期に関しては、全員が研修開始と同時に行うことを希望していた。今後、麻酔科研修を行う初期研修医には、より早期にシミュレータを用いた気道確保訓練を検討する必要性などの課題が明らかとなった。 今回の経費で購入させて頂いた備品を用いた教育が、病院全体に対する波及効果は現時点では明らかではない。ただ、初期研修医に対する教育を継続する事で、患者急変時の緊急対応に効果が表れ、病院全体の安全性向上や医療の質向上に寄与できると考えている。さらに研修医全員への教育が可能となれば、より一層の効果が期待できる可能性がある。			